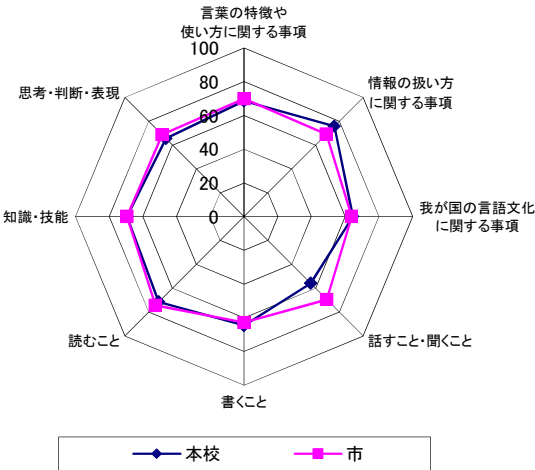


宇都宮市立上河内中央小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方にに関する事項	68.6	69.9	72.3
	情報の扱い方にに関する事項	75.8	69.2	73.0
	我が国の言語文化に関する事項	64.5	63.8	66.0
	話すこと・聞くこと	55.9	69.5	71.5
	書くこと	64.5	62.8	67.1
	読むこと	71.5	74.4	73.7
観点別	知識・技能	69.4	69.4	71.9
	思考・判断・表現	65.6	68.8	70.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

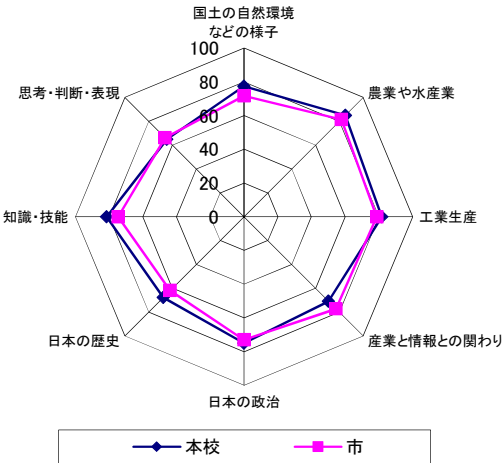
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や 使い方にに関する事項	・校内正答率は69.2%で、市より1.3ポイント低い。 ○漢字を読む、書く問題の校内正答率は、6問中4問で市の平均を大きく上回っている。書くについては、全て市の平均を上回っている。 ●「文章の中で、文脈に沿った漢字を適切に使っている」の校内正答率は48.4%で市より19.9ポイント低い。漢字の定着は図れているものの、文脈の中で適切な漢字を選択することに課題があることが分かった。 ●「文と文との接続の関係を理解している」の校内正答率は45.2%で市より13.3ポイント低い。また、正答率が50パーセントを下回っており、学習したことを活用する問題に課題がある。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字を読む、書くの学習については、今後もドリル等で繰り返し学習するよう継続して指導し、小テストや漢字検定を実施することで定着を図る。 ・接続詞や指示語などの文をつなぐ言葉に対する理解を深めるため、短文づくりや2文を1文にする問題に触れるなど、日常的に学習を積み重ねていくようにする。
情報の扱い方 に関する事項	・校内正答率は75.8%で、市より6.6ポイント高い。 ○「情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理している」の校内正答率は87.1%で市より3.3ポイント高い。 ○「情報と情報との関係について理解し、目的に応じて、文章を簡単に書いている」の校内正答率は64.5%で市より9.9ポイント高い。 ○情報の扱い方に関する問いはどちらも市の平均を上回っているが、記述の問題になると正答率が低いことが分かった。	・今後も、目的に合わせて情報を収集し、資料を関連付けながら読み取る活動を行ったり、読み取ったことをもとに考えを深めたりする活動を行ったりすることで、思考力を高めていく。 ・他教科でも情報を関連させて考えたり、情報を整理したりする活動を丁寧に扱い、指導を継続していく。
我が国の言語文化 に関する事項	・校内正答率は64.5%で、市より0.7ポイント高い。 ○「ごくの由来に関心をもち、和語、漢語、外来語について理解している」の校内正答率は64.5%で市より0.7ポイント高いが、和語と漢語の理解が定着していない児童が30%程度いることが分かった。	・漢字の学習では、新出漢字を読んだり書いたりする学習に留まらず、成り立ちや漢字のつくり、意味など、言語に対する理解を深めていけるようにする。
話すこと・聞くこと	・校内正答率は55.9%で、市より13.6ポイント低い。 ●「意図に応じて、質問を工夫している」の校内正答率は51.6%で市より14.6ポイント低い。 ●「自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えている」の校内正答率は、51.6%で市より14.5ポイント低い。 ●話すこと・聞くことは3問中3問とも市の平均を大きく下回っており、目的や話し手の意図を考えて話を聞くことに課題があることが分かった。	・話の主旨を捉え、大事なことを考えながら聞くことを日常的に指導していく。 ・大事なことは端的にメモをすることや分かりやすいメモの取り方の工夫も改めて指導していく。 ・話題の中心や話し手の意図を考えて聞くことができるよう、話すこと・聞くことの単元の学習だけでなく、日常的に意識することができるよう繰り返し指導していく。
書くこと	・校内正答率は64.5%で、市より1.7ポイント低い。 ○「指定された長さで文章を書いている」の校内正答率は74.2%で市より6ポイント高い。 ●「段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書いている」の校内正答率は58.1%で市より7.1ポイント低い。	・文を書く時には、話のまとまりを意識して段落を構成することを日常的に指導する。 ・プリント等を活用し、段落の構成や役割について理解が深まるよう繰り返し学習する。
読むこと	・校内正答率は71.5%で、市より2.9ポイント低い。 ○説明文の「叙述をもとに文章の内容を捉えている」の校内正答率は77.4ポイントで市より12.2ポイント高い。 ●物語の内容を読み取る問題は、3問中3問とも市の平均を下回っている。特に、「文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている」の校内正答率は、71.0%で市より7.7ポイント低い。	・物語文の学習では、登場人物の心情や情景描写を読み取るだけでなく、それらに対する感想や意見を交流する機会を設け、自分の考えと比較したり自分の考えを広げたりできるよう指導していく。 ・説明文の学習では、語句や説明的な文章の表現を取り上げたり、接続詞やその役割、段落ごとの要点や段落の構成を学ばせたりすることで、内容を的確に読み取る力を身に付けさせていく。

宇都宮市立上河内中央小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	77.4	71.6	67.5
	農業や水産業	84.9	81.5	82.1
	工業生産	81.7	78.7	70.8
	産業と情報との関わり	71.0	77.2	68.2
	日本の政治	75.0	73.1	77.9
	日本の歴史	67.7	62.0	65.8
観点別	知識・技能	81.5	74.6	74.5
	思考・判断・表現	64.8	66.2	65.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

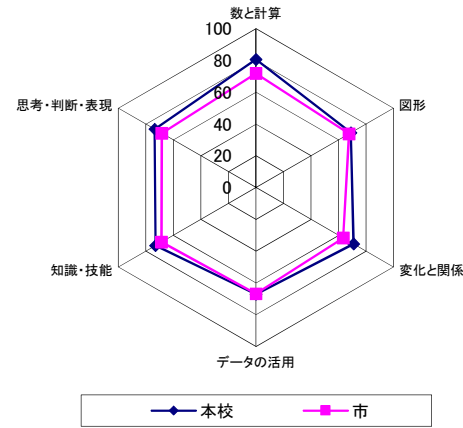
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	・校内正答率は、市より5.8ポイント高い。 ○日本の周辺の海洋名について答える問題の正答率は、市より11.1ポイント高い。 ○日本の主な地形の名称と位置の理解をもとに、地図を読み取って答える問題の正答率は、市より27.4ポイント高い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・地図帳や地球儀、ICT機器を活用し日本の主な地形の名称や位置について理解させたり、ワークシートを活用して国旗を覚えさせたりするなどして知識の定着を図る。
農業や水産業	・校内正答率は、市より3.4ポイント高い。 ○地産地消の取り組みについて理解しているか問う問題の正答率は、市より7.8ポイント高い。	・資料を読み取ったり資料を基に考察する力を育てるために、資料から読み取れることを話し合ったり、資料を基に自分の考えを説明したりまとめる活動を積極的に取り入れる。 ・日本の食糧生産に関する地図や資料を読み取る活動を取り入れる。
工業生産	・校内正答率は、市より3.0ポイント高い。 ○キャリアカーと船に着目して、自動車の出荷の工夫を捉え、表現する問題の正答率は、市より2.3ポイント高い。 ○日本の輸出品の資料を読み取る問題の正答率は、市より5.6ポイント高い。	・資料から情報を読み取り、整理し、必要な事柄を抜き出す活動や資料から読み取れることを話し合ったり説明し合ったりする活動を取り入れる。 ・グラフや表の読み取り方を復習するとともに、読み取った情報を活用したり表現したりする活動を取り入れる。
産業と情報との関わり	・校内正答率は、市より6.2ポイント低い。 ●資料に着目して、コンビニエンスストアの発注システムについて捉え、判断する問題の正答率は、市より11.2ポイント低い。	・資料を基に自分の考えを説明したりまとめる活動を取り入れる。 ・正しい回答を導き出すことができるよう、資料から必要な情報を読み取る活動や課題を取り入れる。
日本の政治	・校内正答率は、市より1.9ポイント高い。 ○図に着目して、国民による政治の仕組みを判断する問題の回答率は、市より11.7ポイント高い。 ●日本国憲法について説明として正しいものを答える問題の正答率は、市の平均より8.9ポイント低い。	・日本国憲法の特徴を復習するとともに、正しくない説明のどの部分が正しくないのかを見つけ出し話し合ったりする活動を取り入れる。
日本の歴史	・校内正答率は、市より5.7ポイント高い。 ○大和朝廷について理解しているか問う問題の正答率は、市の平均より22.4ポイント高い。 ○北条政子の訴えについての理解をもとに、いつの出来事だったのか年表に当てはめる問題の正答率は、市より、11.4ポイント高い。 ●江戸幕府による大名支配について、適切な見出しを判断する問題の正答率は市の平均より11.9ポイント低い。	・それぞれの時代の特徴や時代のつながりを押さえられるよう、時代を代表する歴史事象や人物の業績について調べたことを、年表や図表、新聞などにまとめる活動を取り入れる。 ・江戸幕府の特徴を復習するとともに、資料から読み取った内容を短い言葉に変える活動を取り入れる。

宇都宮市立上河内中央小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	80.6	71.8	76.2
	図形	69.0	67.7	67.8
	変化と関係	71.0	63.4	62.7
	データの活用	67.2	66.7	61.5
観点別	知識・技能	72.9	68.6	70.7
	思考・判断・表現	73.5	68.5	66.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

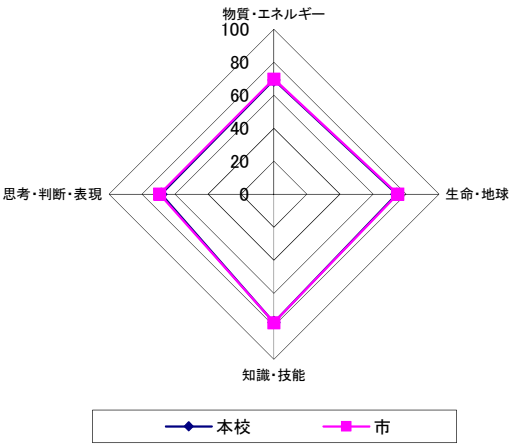
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	・校内正答率は80.6%で、市よりも8.8ポイント高い。 ○文字を使った式が表す場面を選ぶ問題の正答率が100%であり、市より20.2ポイント高い。 ○分数や小数のかけ算やわり算の基本的な計算問題の正答率が市より約5ポイントほど高く、基礎的な計算の力が身に付いている。 ●分数の除法の問題にあった図(数直線)を選んだり、答えを求める式を選んだりする設問の正答率が市とほぼ同じではあるが正答率が低い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・基礎的な計算の力は定着しつつある。今後もドリル等を活用して宿題や朝の学習等で継続的に指導していく。 ・普段の授業で数直線を使って問題を解くように意識して指導していく。
図形	・校内正答率は69.0%で、市より1.3ポイント高い。 ○2つの角が与えられた三角形の1つの外角を求める問題の正答率が90.3%で16.4ポイント高い。 ●線対称な図形について、対称の軸が何本あるかを求める問題の正答率が51.6%で、市より4.3ポイント低い。	・合同な三角形をかくための3つの条件を理解させた上で作図をさせる。 ・今後も、少人数指導の充実や、ICT機器や模型など活用を通して、ていねいな指導を行う。
変化と関係	・校内正答率は71.0%で、市より7.6ポイント高い。 ○図から面積と数の割合を求め、どのうさぎ小屋が最も混んでいるかを選ぶ問題の正答率が90.3%で市より10.3ポイント高い。 ●基準量と比較量から割合を求める問題の正答率が市より1.1ポイント高いが正答率が51.6%と低い。	・割合を求める場合は、何が基準量なのかということを押さえて指導する。
データの活用	・校内正答率は67.2%で、市より0.5ポイント高い。 ○柱状グラフからわかることを読み取る問題の正答率が96.8%で、市より12.1ポイント高い。 ●欲しいデータを求めるために必要な情報を選ぶ問題の正答率が48.4%で、市より13.9ポイント低い。 ●帯グラフを読み取り、説明する記述式の問題の正答率が29.0%と低く、市よりも5.5ポイント低い。	・自分が調べたい事柄のためには、どんなデータが必要かを考えさせる。 ・読み取ったグラフのデータと割合の学習を結び付けて考えることができるようにする。 ・データを多面的に読み取ったり、身の回りのデータをとって発信し生活に活かしていきたりするようにする。 ・言葉や数、式、図などの相互の関連を理解し、それらを用いて問題を解決したり、自分の考えを分かりやすく説明したりできる力を養うために、普段から自分の考えを説明し合う学習を意図的に行う。

宇都宮市立上河内中央小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	69.4	69.9	67.8
	生命・地球	74.4	75.1	73.7
観点別	知識・技能	77.7	77.8	78.4
	思考・判断・表現	68.5	69.4	66.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	・校内正答率は69.4%で市より0.5ポイント低い。 ○実験操作を改善する方法を記述して答える問題の正答率は67.7%で、市より4.7ポイント高い。 ○食物連鎖を理解しているかを問う問題の正答率は90.3%で市より3.8ポイント高い。 ●食塩とヨウバンを水に加えたときの溶け方を理解しているかを問う問題の正答率は54.8%で市より17.4ポイント低い。	・「物の溶け方」の学習では、物が水に溶ける量や全体の量に着目して、水の量や温度などの条件を整え、物の溶け方の規則性を調べる活動を通して、それらについて理解を図るようにする。 ・観察や実験では、操作する技能を身に付けるとともに、予想や仮説を基に解決の方法を発想したり、主体的に問題解決したりできるよう、活動前に視点を示して考えをもてるようにする。
生命・地球	・校内正答率は74.4%で市より0.6ポイント低い。 ○溶け残った食塩をすべて溶かす方法を問う問題での正答率は64.5%で、市より15.7ポイント高い。 ○振り子が1往復する時間と振幅の関係を調べるための対照実験を計画する問題の正答率は83.9%で、市より14.9ポイント高い。 ●新月のときの月と太陽の位置関係をモデルを使って考える問題での正答率は77.4パーセントで市より5.3%低い。	・「月と太陽」の学習では、月と太陽の位置関係と月の形の見え方を調べるためにボールを使ったモデル実験の場と時間を十分に確保する。実験では、ボールの位置を変えた時の月の形の変わり方を記録して一覧にまとめられるようにし、月と太陽の関係を適切に捉えられるようにする。またボールを何度も動かすことで、実感を伴って理解できるようにする。

宇都宮市立上河内中央小学校

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業づくりを目指して～はつきり・じっくり・すっきり～の学習過程の工夫～	上央小スタンダードを活用し、はつきり・じっくり・すっきりを意識した授業を展開する。授業のねらいや課題を明確にすることで、児童が主体的に学習に取り組むことができるようにした。すっきり(まとめ)の時間を十分に確保し、児童が分かったという実感のもてる授業を行うことを意識した。また、ICTを積極的に活用し、様々な考えを共有できるよう授業の展開を工夫する意識をもって教材研究を行った。	「学校の授業がどの程度分かりますか」の3～6年生の平均の肯定割合は、93.1%で昨年度より2.6ポイント高かった。昨年度課題だった、上央小スタンダードのすっきり(まとめ)の時間にも重点をおき、児童自身が分かったという実感がもてるまとめの工夫をしてきたことの成果だと考えられる。しかし、「グループなどの話合いに進んで参加している」では、1～6年生の平均の肯定割合は78.8%で、昨年度より4.1ポイント低かった。さらに「学習していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」の1～6年生の平均の肯定割合は89.9%で、昨年度より4ポイント低い。今年度は、ICTを活用した話合いの場面を意図的に取り入れて授業改善を行ってきたが、単元や教科、学年によって、児童が充実感や達成感を味わえる効果的な話合いの方法を工夫していくことが必要である。
基礎基本の確実な習得	上央小漢字・算数検定や朝の学習の時間を活用し、基礎基本の確実な取得を目指して繰り返し学習に取り組んでいる。	「新しく習ったことは、何度も繰り返し練習している」の1～6年生の平均の肯定割合は、75.2%で昨年度より2.9ポイント高かった。また、6年生の学力調査の「知識・技能」の結果を見ると、国語と理科は市の平均とほぼ同じ、社会と国語は市の平均より約5ポイント高かった。上央小検定や朝の学習が成果につながっている。さらに、AIDリルを活用し、児童が自主的に学習に取り組めたこと、苦手な教科や単元を自分で選択し、繰り返し学習できたことも有効だったと考えられる。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方針

基礎基本の確実な習得に向けた取組の継続により、「知識・技能」については4教科とも市と同じかそれを上回っている。今後も、各教科において、知識・技能の確実な定着に向けた取組を実践していくと同時に「思考力・判断力・表現力」の力を伸ばすための授業改善を図っていく。根拠を明確にして考えを伝えたり、自分の考えをもって話合い活動に参加していたりできる児童を育成するために研究を進めていきたい。